

新型コロナウイルス感染症と 作業療法

特集にあたって

新型コロナウイルス感染症が世界的に流行を始めてから2年になろうとしている。日本では、2020年（令和2年）1月15日に最初の感染者が確認された後、2021年（令和3年）12月7日までに、合計172万8,015人の感染者、1万8,365人の死亡者が確認された（厚生労働省報道発表より）。この間、5回の波のたびに感染が拡大し、一方でワクチン接種は進み、さらにもう一方では変異株が広がる等、状況は変化を続け、この先もまた感染の波が来るとの予測もされている。

社会に大きなインパクトを与えた新型コロナウイルス感染症は、大小はあれどすべての作業療法実践にも影響を及ぼしたであろう。専用病棟で感染者への作業療法を行うOT、勤務施設でクラスター感染を経験したOT、感染対策によって変化した生活様式のなかで工夫をして作業療法を展開するOT。本特集では新型コロナウイルス感染症の最新情報とともに、OTがどのようにこの感染症に対応したか、多角的に知ることができるよう、さまざまな領域での経験を執筆いただいた。

2021年12月初旬現在、新たな変異株の懸念はあるものの感染者数は急速に減少し、生活も日常を取り戻しつつある。しかし、長引く後遺症や、社会とのつながりが途切れたままの人もおり、そういった方々へ対して作業療法ができることを考えていかなければならない。本特集がこの2年を振り返り、次への備えとなることを期待したい。

（遠藤 千冬）

企画担当

遠藤 千冬（日本作業療法士協会、作業療法士）

江藤 文夫（国立障害者リハビリテーションセンター、顧問・医師）

山本 伸一（山梨リハビリテーション病院、作業療法士）